

# MSN-02

## ZEONG

ジオング

一年戦争末期、ジオン公国軍が開発したサイコミュ・システム搭載型のニュータイプ専用MS。  
機体各部に13基ものメガ粒子砲を備え、なかでも腕部5連装メガ粒子砲は有線式遠隔攻撃端末として機能。  
脚部(歩行ユニット)が装着されていないが、これは純粋な宇宙戦仕様として設計されたためである。  
機体名の由来は、究極のMSに公国名を冠することで国民の士気高揚を狙ったとも、  
公国の理念であるニュータイプの存在を証明するためであるともいわれる。



全高	17.3m
全重量	151.2t
機体重量	231.9t
材質	超硬スチール合金
出力	9,400kW
装甲	187,000kg
バリエーション	81,000m
武装	腕部メガ粒子砲×1 脚部有線式5連装メガ粒子砲×2 胴部メガ粒子砲×2 シャア・アズナブル

### GUNDAM MS Bible 29

#### CONTENTS

■ 戦場レポート 決戦! ア・バオア・クー	01	■ MS戦記 ジオング 戦いの記録	16
■ MS機体解析 機体解説 機体バリエーション 武装解説	05 08 10	■ MS進化論 ジオング 開発系図	18
■ 関連MSラインナップ ジオングと関連機体	12	■ メカニック・ジャーナル 宇宙用MS マニピュレーター ア・バオア・クー	22 28 30
■ MSパイロット シャア・アズナブルと周辺人物	14	■ ガンブラ ジェネレーション 非人間的なシルエットを完全再現!	34







『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙』編より

# 決戦! ア・バオア・クー

## 運用MS ジオン公国軍

多くのMSはもてる能力の大半をア・バオア・クーに集結。最新鋭の「ゲルググ」や「ビグロ」も投入した。しかし、フィールドの防衛の要となったドロスの撃沈を皮切りに形勢逆転。次第に優勢に立たれることになった。



MUSAI  
ムサイ機雷巡洋艦



CHIBE  
チベ機雷巡洋艦



MS-06F ZAKU II  
ザクII F型



MS-09R RICK-DOM  
リックドム



MSN-02 ZEONG  
ジオング

宇宙戦を重視するため、重戦の少ないのが特徴の  
新鋭MS。全身に13基ものメガ粒子砲を配置し、  
これらを駆使した射撃戦を得意とする。



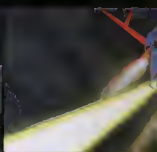
ZANZIBAR  
ザンジバル機雷巡洋艦



MA-05 BIGRO  
ビッグロ



GATTLE  
ガトル機雷巡洋艦

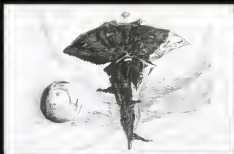


U.C.0079.12.30、ソーラ・レイによって旗艦を含む艦隊戦力の30%と総大将レベルを失った地球連邦軍。しかし翌12.31には残存戦力の再編成を完了。ジオン公国軍宇宙要塞ア・バオア・クーへの攻撃を開始した。一方、キシリア・ザビに招聘されて要塞防衛戦に参加したシャア・アズナブルは、完成度が80%に満たないとされる新型MSを託されることとなる。「ジオング」と名づけられたニュータイプ専用MSは能力を遺憾なく発揮して連邦軍MSを次々と撃破。勢いのままに、シャアは宿敵であり、ララァ・スンの仇であるガンダムとの決着に挑むのだった。

## 戦闘宙域

一年戦争最後の戦場となったア・バオア・クーは、ジオン公国本土防衛ラインの一角を担う重要地点。公国軍総帥ギレン・ザビの指揮の下、2隻の大型宇宙空母(ドロス級ドロスおよび同級ドロー)が配備され、堅固な防衛網が構築された。しかしゲルググをはじめとする新鋭MSの配備の遅れや熟練兵不足からくる学徒兵の戦弱、なによりギレン陣営による指揮系統の混乱が重なり、轉戦の要位を保てずに陥落することとなった。

NフィールドとSフィールドから決める戦いは、対する公国軍はNフィールドの部隊を連邦軍本隊と判別して戦力を集中、所屬員の優位を確立した。



■ふたつの小部隊の連絡によって特徴的な姿を形作るア・バオア・クー

攻撃に際して連邦軍は第2、3艦隊をNフィールドから、第1艦隊の残存部隊とホワイトベースをSフィールドから進取させた。当初は劣勢だったNフィールドだったが、ギレン陣営による指示系統の混乱に乗じて挽回を図っている。

## 運用MS 地球連邦軍



RX-78-2 GUNDAM  
ガンダム

「降参の白いMS」の異名を持つ機体。本編の決戦によって所屬するホワイトベースはニュータイプ専用と見なされ、戦果を挙げた。



RX-77 GUNCANNON  
ガンキャノン



RGM-79 GM  
ジム



RG-78 BALL  
ボール



PABLIC  
パブリック



WHITEBASE  
ホワイトベース



MAGELLAN  
マゼラン



SALAMIS  
サラミス

## HISTORY TIMELINE — 戦場の歴史 —

### 最終戦協定締結と残された火種

ア・バオア・クー空域での戦いが続く最中、ジオン共和国のダス・バハバ公が連邦政府に終戦協定締結を打診。月面都市グラナダで協定が締結され、U.C.0080.01.01に一年戦争は終結した。だがこの締結を思わない公国軍残党は地球圏内外に脱出、地下に潜伏している。

戦場の最終局面、ザビ家の企業メンバーが戦死した。電力供給が停止したア・バオア・クーは要塞としての体を失ってしまふ。



エギーユ・ブザースのように部下を率いて要塞を脱出する部隊が精出。ただしそのほとんどは投降することなく、ゲリラ化している。

一方、皇女ミネルバをとらえた部隊は小惑星基地アタラシスに移動を強迫。そのなかにはシャアらしき者もあつたとされる。

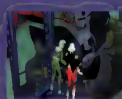
# MS 機体解析



MSN-02 ZEONG  
ジオング



MSN-02  
ジオング  
front view



脚部の長いことと不敵に歪んだシャアが、顔の表情は「断んならねえだす」と述べ、本機の威力の脅さを強調した。

## 機体比較

		
RX-78-2 GUNDAM 18.0m	MSN-02 ZEONG 17.3m	MS-14A GELGOG 18.2m

脚部の長い西洋の巨匠にMSに分類される機体で、総高は一機約なMSに匹敵する。全体のボリュームとしては大型機と呼んでは差し支えない。機体重量もRX-78-2ガンダムの2.5倍近くに達している。



機スケール  
パイロットとの対比。



20万kg近い大威力で高い機動性を誇る。サイコミュ兵器のオールレンジ攻撃とともに圧倒的な戦力を示した。



ア・バオア・クー攻防戦に投入され、「赤い彗星」シャアが一年戦争において最後に用いた機体となった。

## 「ジオン公国軍の威信を賭けて開発されたジオン」の名を冠するニュータイプ専用MS

ジオン公国軍によるニュータイプ専用機の開発は、サイコミュシステムを用いたニュータイプの感応度の軍事利用というアプローチのト、一年戦争末期の短い時間で劇的に発展した。その最終形ともいえるニュータイプ専用MSが、MSN-02 ジョングである。公国軍の威信を賭けて「ジオン」の名を冠された本機は、同軍最後の実戦投入MSとしてその威力を戦場で発揮することとなった。

ジョングの最大の特徴は、脚部を持たない特異な機体構造と有線誘導方式を採用したサイコミュ兵器にある。それによって本機はパイロットのニュータイプ能力を下地とする高次元の空間戦闘能力を獲得し、ニュータイプ専用機としての実用的な性能を示した。そして、シャア・アズナブルの乗機として、ア・バオア・クー攻防戦に投入され、その一戦だけで多人数の戦果を挙げたのだ。

# MS 機体解析 機体解説

## 複数の実験機による試行錯誤を経て 完成に至ったジオングの特異な機体構造

ジオングには当初、MS-16X(=MS-16)ともという仮の型式番号が与えられ、開発計画の承認と同時に複数の実験機によるデータ収集が進められた。その後、中小型汎用戦闘機とMS-06Z サイコミュシステム試験用ザク、MSN-03 ブラウプロといった複数機によるサイコミュのテストとヒーム兵器の試験を経て、純粋な新設計機としての開発が決定。新たに振られたMSN-02の型式番号の下、MSN-08 エルメスの完成にともない計画が縮小される中、ア・ハオ・クワール 1機で3機の試作機が製作されたという(そして、その1号機が実戦投入された)。

### ■頭部

頭部は従来のジオン公国軍系MSとは形状が大きく異なり、サイコミュシステムを介した接続を行うコクピットを配置した設計も特徴に挙げられる。一方、ジオン系MSの例に漏れず走査線束にはモノアイが採用されており、モノアイレールは頭頂部までカバーしている。機体上方から空間機動時の進行方向となる機道を窺いながらのとも考えられる。また、本機のセンサー有効半径を81,000mとする資料も存在するが、当時のMSとは比べると、文字通り桁がひとつ違うため、その数値には疑問を感じざるを得ない。



モノアイレールを頭頂部まで伸ばす設計はサイコミュシステム試験用ザクから受け継がれたものであった。

### ■腕部

ジオングの腕部は、作戦機としての機能が重複される一般的なMSのそれとは異なり、兵装としての意味合いが強い。本機の腕部は前腕部が分離してサイコミュ制御の有線誘導式攻撃端末となる構造で、上腕と前腕を繋ぐ滑動ケーブルは2本ないし3本の予備がセッティングされている。また、五本指のマニピュレーターを備えるが、各指はメカ粒子銃の砲身となっている。なお、ア・ハオ・クワール戦の時点で本機の完成度は80%だったと評されるが、上腕部の装甲が未装着だったこともその一因と考えられている。



前腕の連動部は包帯で、上腕部の肘関節から先が収納される。前腕連動部には4本のハーニアを備える。

### ■胴体 コクピット

機体各部に装備された計13基のメカ粒子銃を稼働させるため、胴体には大型の機械反応炉が搭載された。また、機体のコクピットとは別に胸部中央にもコクピットを備える。これはニュータイプ能力の低いパイロットに対応した設計で、ニュータイプが操縦する場合は頭部コクピットでサイコミュを用いるのに対して、一般パイロットは2名で砲手と操縦手を分担する仕様だったとされる。ブラウもこれに近い構造で、コンソールの応用がうかがえる。なお、胴体部のコクピットは機体制御を司り、火器駆動を行う頭部コクピットとの行き来も可能だった。



ア・ハオ・クワールの戦場においては、ヒームライフルの一発を胴体に変えながらも一度は破壊を免れている。



左の側面は胴体側コクピットの乗降口で、シャアは出撃時にこちらから機体に入り込んでいた。右の側面は頭部コクピットで、内部構造はエルメスのそれに近い。



MSN-02  
ZEONG  
Rear view

## ■スラスター

一般的に知られるノックの仕様は、歩行ユニット（脚部）を兼用して高機動スラスタを装備するMS-16Xの第2試案が基になっている。第1試案については（後述）これはサイコミュシステム試験用ザクの2号機を改修したMSN-01サイコミュシステム高機動試験機の構造をベースとし、腰部スカートの内側に配した可変式ロケット・モーターの推力によって機動性を確保するMA的な設計思想に基づいている。



機体に装備するスラスタは、補助推力であると同時に、方向転換用の推力源にも使われている。



機体を動かすのは高機動スラスタ（左）のほかに、腰部スカートの内側に配した可変式ロケット・モーター（右）の推力によって機動性を確保するMA的な設計思想に基づいている。



左 上部の色がついた部分からスラスタ・機体の高機動スラスタ・ユニットのほか、腰部スカートにも4機の推進器を備える

## ■分離機構

ニュータイプパイロットの搭乗を想定したジオングは、その保護を目的とした脱出機構を設けている。それが頭部の分離構造で、本機はコクピットを配した頭部ユニットから脱出カプセルを兼ねていた。頭部ユニット両側面には可動式の小型スラスタを備え、半体でも小型MAとして戦闘が可能なようメカ粒子砲（後述）も内蔵しており、パイロットの搭乗によっては平均的なMS1機分の威力を発揮したとされる。



機体を離れた機体から分離する頭部ユニットニュータイプパイロットの生存性向上を図った機構が示されている。



分離した頭部機体でも戦闘は可能。また、歯車にコクピット・ハッチを備え、シャアは機体機にそこから脱出した。

## ニュータイプ専用機の意義

ジオングは「究極のMS」を目標した機体といわれ、その性能をニュータイプ能力の活用にあてた。同時に、ジオンズ・ダイクンが提唱したニュータイプの概念を具現するMSという象徴的な側面も有していた。そのコンセプトの下、本機は公国軍ニュータイプ専用機のノウハウが盛り込まれたのである。



サイコミュ系統の完成機はヒットのような機体構造で、左から見るが、本機は機動性を考慮して有線誘導式（右）を装備した。



有線式攻撃端末を伸ばして攻撃範囲に入ったジオング。本機との両方向の機動を任せるため、不測の事態やオールレンジ攻撃に有効な設計だ。



# MS 機体解析 機体バリエーション



MSN-02 PERFECT ZEONG

パーフェクト・ジオング

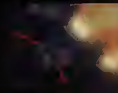
## MS-16Xの第1試案に基づき 歩行ユニットを装着した ジオングのもうひとつの姿

ジオングの開発過程においては、MS-16Xとしての設計段階にふたつの試案が存在した。そのうちのひとつである第2試案に基づき、同機は前述のように脚部を持たない機体構造を採用することとなった。一方の第1試案——AMBACシステムとしても機能する陸戦用歩行ユニットを装着した仕様は、一度は採用が見送られながらも開発が継続された。その第1試案に沿った同機のもうひとつの形態が、MSN-02 パーフェクト・ジオング（ジオング（完成機）とも呼称）である。

パーフェクト・ジオングの名称は、第1試案に基づくジオングの別仕様を指す俗称とされ、開発計画は「陸戦用歩行ユニット装着オペレーション」と呼ばれる場合もある。これは機動用スラスター・ユニットに替えて歩行ユニット（脚部）を装着した状態だが、実際に運用されることはなかったといわれる。



ア・バオア・クー艦内で開発されていたジオングの1号機、パーフェクト・ジオングへの換装が予定されていた。



脚部となる歩行ユニット以外に異なるジオングと見られる点はあるが、よりMSとしての姿に近づいた仕様だった。

### 機体比較



歩行ユニットを装着した状態の機体サイズが一般的なMSの倍近くにもなる（脚部については別項あり）。上半身は通常のジオングとまったく変わらないが、ここで示した箇所のように右主脚部と右大腿部の箇所で省略されて置かれることが多い。



MSN-02  
PERFECT ZEONG  
Front view

### SPEC

全高 35.8m（その他35.38.39.40mの早設計）  
 本体重量 317.2t  
 武装 高エネルギー粒子砲×1 腕部メカ粒子砲×2 胸部高エネルギー粒子砲×2



キシリア・ザビの意向でジオングの1号機がシャアに与えられたが、歩行ユニットは未完成の状態で終わった。

# MS 機体解析 機体解説

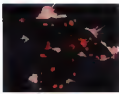
## 歩行ユニットの開発に至った経緯と 実現を妨げたア・バオア・クー戦の敗北

有線誘導方式のサイコミュ兵器の搭載を想定していたジオングは、無線誘導方式を実現したエルメスの完成によって開発計画が大幅に縮小された。その際、一部が残留したプロジェクトチームは第1試案に再注目し、試作機の建造に並行して歩行ユニットの開発を行った（軍首脳部の歩兵戦構想に影響されたともいわれる）。この歩行ユニットは1号機のために用意されたものだったが、ア・バオア・クー戦の時点では未完成だった。そして同じく建造途中だった試作機の2号機と3号機とともに要塞陥落時の火災で焼失したといわれている。



歩行ユニットはア・バオア・クー陥落時に失われたとされるが、回収されてのちに本仕様として完成したとする説もある。

部隊投入においては機体用スラスターユニットが用いられたが、本仕様はそれ以上の機動性を有していたともいわれる。



MSN-02  
PERFECT ZEONG  
Rear view



### ■機体構造

パーフェクト・ジオングは歩行ユニットを装着することで、通常のMSと同じく四肢を用いたAMBAC機動が可能となる。また、腰部はユニットごと換装できる構造となっていた。さらに、機体を頭部、胸部、両腕部、腰部、両脚部の7つのユニットに分割し、それぞれをサイコミュ制御の無線誘導でオールレンジ攻撃に用いるという構想も存在した。そのコンセプトはMSN-03の型式番号で仕様書（右はその図面とされる）も提出されていたが、開発に着手する以前に一年戦争は終結し、その機体は構想のみで終わることとなった。



左は歩行ユニットの足輪構造。機体用スラスターユニットと同じく、4連続のスラスターを備えているのがわかる。

パーフェクト・ジオング / 機体図面



### ■武装

パーフェクト・ジオングとジオングの相違点は歩行ユニットのみで、兵装も共通している。ただし、前述のMSN-03の仕様では分離するユニットすべてにビーム砲を搭載する予定だったという。また、本機の脚部にサイコミュ制御の攻撃端末を装備する設計案もあったといわれている。



両腕部の両肩関節式メガ粒子砲によるオールレンジ攻撃を主体とするコンセプトはジオングと同じで、その思想を両脚に実装させたものがMSN-03の構想だったといえる。

### ■開発現場の評価

ジオングを見たシャアの「脚が付いていない」という言葉に、技術士官が「あんなのは知りません。偉い人にはそれがわからんのですよ」と返したエピソードは有名な。歩行ユニットの完成が間に合わず、パーフェクト・ジオングの実戦投入は実現しなかったが、ジオング自体の性能に不満はないと見られていたのだろう。



80%の完成度という評価に、技術士官は現状で100%の性能を出せると言い返している。

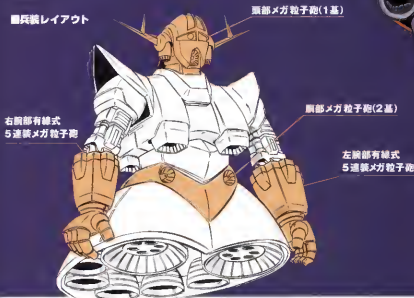
機体	仕様	詳細
1号機	第2試案	ア・バオア・クー攻防戦で、シャア・アズナブル大佐が搭乘、ガンダムとの交戦時に喪失。
2号機	第1試案	ア・バオア・クー陥落時に焼失。
3号機	第1試案	ア・バオア・クー陥落時、8割のパーツが搬出され、戦後に第1試案として完成。U.C.0083、シャア大佐が搭乘したともいわれる。

# MS 機体解析 武装解説

## 有線誘導式によるオールレンジ攻撃能力と 13基ものメガ粒子砲が生み出す圧倒的な火力

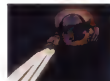
ジオングはニュータイプ専用機の低位性を生かすため、オールレンジ攻撃を可能とするサイコミュ兵器の搭載を図った。しかし、実験機によるサイコミュシステムの運用データにはムラがあり、ニュータイプ能力を持つパイロットの確保も困難だったことから、運用のハードルが比較的低い有線誘導式を選択している。また、胴体に搭載された大形の熱核反応炉によって通常のMSの3.8倍ものキャパシティを得ることで、サイコミュ兵器の攻撃端末にも用いられるメガ粒子砲を、余裕を持って稼働させ、一年戦争期屈指の大火力を実現している。

### ■兵装レイアウト



### ■胸部有線式5連装メガ粒子砲

両前胸部はサイコミュ制御の有線誘導式攻撃端末となっており、ミニビュレーターの各指が5連装のメガ粒子砲として機能する。このメガ粒子砲は「キアM-33E」を母体とし、艦艇を撃破させるほどの威力を有していた(ほかの部位のメガ粒子砲も同様にキアM-33Eがベースとなっている)。この兵器によるオールレンジ攻撃がジオングの最大の武器であり、ア・バオ・アーク戦においても絶大な威力を発揮している。



両指、本体に接続した状態で発射可能で、メガ粒子砲の集中射撃によって高い破壊力を示した。

攻撃端末はプラウ・プロのデータで極小・超微細化が見られ、手指の関節による柔軟な攻撃が可能だった。

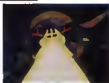


### ■頭部メガ粒子砲

頭部ユニットの口門部にはメガ粒子砲1基が内蔵されている。頭部の可動構造によってある程度の射界を確保できるほか、脱出力バースルとして胸部を分離した際には前面用の兵器となる。また、ガンダムとの交戦ではその頭部を破壊するなど、ルナ・チタニウム合金の装甲に対して有効な威力を誇った。なお、この兵器のコントロールにもサイコミュシステムが用いられていたとされる。



胸部を接続することで進行方向の目標に攻撃することも可能で、可動式のメガ粒子砲として機能した。



### ■胴部メガ粒子砲

胴部前面の左右にも2基のメガ粒子砲を備える。規格は胸部や頭部のメガ粒子砲と同じで、サイコミュシステムによるコントロールが可能だった。また、ある程度は射角の制御ができたものの、ほかのメガ粒子砲に比べると限定的で、使用される頻度はそれほど高くなかったと見られる。ガンダムとの戦闘では、要害表面に機体を固定した状態で待ち伏せに用いられたが、すべて回避されている。



胴部メガ粒子砲を発射するジオング。基盤のなかでガンダムを睨み着けたが、回避されて接近を許している。

ア・バオ・アークの装甲を穿つほどの威力を示した。ほかのメガ粒子砲も同等の威力を誇っていたと見られる。

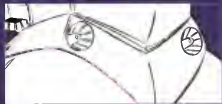




有線誘導式サイコミュによるオールレンジ攻撃は高い信頼性を有した武器。突如とした爆発に威力という面点を翻え、そこをガンダムに勝たせた。

ガンダムとの最終の戦いには、ビーム・ライフルを受けながらも直撃メガ粒子砲を命中させ、両方に倒らされた。

主制御部が胴体前面に位置する構造上、機体中は制導メガ粒子砲の操作が可能である。そのため有線誘導式の機体に最適するケースもあった。



## 有線誘導式攻撃端末の発展

ジオンにも採用された有線誘導式攻撃端末は、ニュータイプ能力が低い、もしくはまったくないパイロットでも(機械的な補助を介するなどで)制御が可能という利点があった。そのため、以降の機体にもさまざまな方式で採用され、戦闘能力の向上に貢献することとなった。



攻撃端末にはメガ粒子砲などの火薬を推進する例がほとんどだが、燃料を前装とした電磁兵器に利用する例もあった。



電磁式に比べて運用が容易な反面、両脚なサイコミュ機能の攻撃端末のような複雑な装置が難しいという欠点がある。

## 最初期の

### 有線誘導式端末

史上初の有線誘導式攻撃端末は、プラウ・プロに装備された有線式メガ粒子砲だった。在来型のメカ式粒子砲をそのまま翻せるという構造から、サイコミュ・システムを介さずに専属の制御手による制御も可能だった。



MAN-03 プラウ・プロ

### 格闘戦用兵器を兼ねた有線式端末

ノイエ・ジールに装備された有線式クロウ・アームは、クロウを備えた有線誘導式メガ粒子砲で、コンピュータの補助により類似的なオールレンジ攻撃を実現していた。また射撃だけでなく、クロウによる近接格闘戦も可能としている。



AMAX-2  
ノイエ・ジール

### 技術の進歩による 攻撃端末の小型化

ハンマ・ハンマの有線アームは先駆的に3連ビーム砲とクロウを備え、準サイコミュ・システムによって制御される。前装と先端部をそれぞれ分けて連発操作でき、先端の端末はMSのマニピュレーターサイズにまで小型化されている。



AMX-103  
ハンマ・ハンマ

### インコムに見る 誘導方式の多様化

ローゼン・ズールのインコムは、一般パイロットでも制御可能な準サイコミュ式攻撃端末で、リレー・インコムと呼ばれる中継器を用いて先端の攻撃端末を制御する。ハンマ・ハンマの発展型ともいえる誘導方式を採用していた。



YAMS-132  
ローゼン・ズール

# 関連MS ラインナップ



# MSN-02 ZEONG ジョング

高速機動での  
運用性能を  
検証した  
試験機



フラナガン  
機関の  
協力による  
大型MA

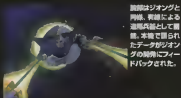


無継式  
攻撃端末を  
採用した  
NT専用機



## ■MSN-01 サイコミュ・システム 高速機動試験機

ザクをベースにしたサイコミュ・システム検証用の機体はいくつが存在するが、なかでも本機は高速機動中の有線制式サイコミュ・システムのデータ収集を目的とするMSである。サイコミュ・システム試験用ザク2号機の胸部を大出力ロケット・エンジンに換装したことによってMAに匹敵する機動性を獲得したが、プロバレント容量の制限から稼働時間は短いのが欠点とされる。



図解はジョングと  
同様に、有線による  
遠隔兵器として機  
体。本機で用いら  
れたデータがジョ  
ングの開発にフィ  
ードバックされた。



図解のベース機  
となったサイコ  
ミュ・システム試験  
機ザク。メガ粒子  
砲を装備した前機  
の小規模化がで  
きず、アンバラン  
スなシルエットに  
なってしまった。

## ■MAN-03 ブラウ・プロ

ジオン公国軍が戦用に成功した初の新タイプニュータイプ専用機。主兵器のメガ粒子砲はエネルギー供給を兼ねたケーブルでの遠隔操作が可能だが、十分な火力を発揮するために大型ジェネレーターを搭載したことで機体が大化型。MAというよりも航空艦というシルエットを持つに至った。最終的に2機が試作され、サイコミュ・システムのデータ収集に使用。そのデータは同時期に開発中だったエルメスやジョングに活かされた。



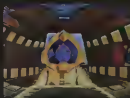
機体運用と重  
要資料用となる  
コックピットを専用  
している。兵装は  
最大3基で、これ  
も拡張機としての  
イメージを生み出  
意となった。



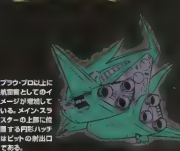
機体は5つのブ  
ロックから構成さ  
れ、それぞれが独  
立して行動可能。  
これはニュータイ  
プパイロットの情  
報を高度化した仕  
組とされる。

## ■MAN-06 エルメス

ブラウ・プロの派生機として完成したニュータイプ専用MA。巨大の特徴はミノフスキー推進を介した無継式攻撃端末ビットを採用した点にある。一年戦争時に公国軍が完成したニュータイプ専用機のほとんどは有線制式による遠隔攻撃端末を装備しているが、本機だけは無継制式を採用。これによって攻撃距離が飛躍的に拡大し、極めて死角から同時に攻撃を仕掛けるオールレンジ攻撃が完成したといえる。



ビットだけでなく  
機体側面にもサイ  
コミュシステムを  
導入したため、コ  
ックピットには必  
要量の制御デ  
バイスが備わ  
るのみである。



ブラウ・プロ以上に  
航空艦としてのイ  
メージが強化して  
いる。メインスラ  
スターの上部に位  
置する円形ハッチ  
はビットの射出口  
である。

一年戦争後、ジオン公国特殊部隊の拠点アムロポリシアに転送されていた戦艦にシャアが暴発。「星がに世襲は上がっている」との感銘を受けた。



ハマーン・カーンに支配を感じ、「敵艦の戦士」を倒す新ネオ・ジオン士官マシュー・セロが艦長。Zガンダムを中継に闘いやっている。



一年戦争最後のニュータイプと呼ばれるアムロ・レイが搭乗。おまりの近防装置にガンダムの特殊系が反応しないという事象が生じた。



機師を接続された公国軍の象徴的機体



重戦艦へのサイコミュ導入を図った機体



ジオングと死闘を演じた白いMS



## ■MS-02 パーフェクト・ジオング

一年戦争末期に完成したジオングには、設計当初から部隊ユニットを拡張した状態が想定されていた。それが「ジオング(完成機)」の名で呼ばれることも多い本機である。全高は30mを優に超え、本体重量にいたっては300t以上に上るが、拡張プロペラントとスラスターの増加によって、機動性は通常のMSはおろか、MAを含む公国軍全機動兵器を上回ると思われる。ただし、現在まで詳細なデータは未確認である。



拡張はジオングと同様だが、一部には機師もサイコミュを接続した制御端末にするプランがあったとの説が流れている。



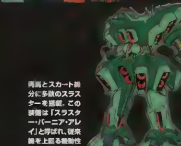
機体サイズは小、頭部の対空式収束砲塔といえ、ディターンズが搭載したサイコ・ガンダム Mk-IIと共通点が多い。とはいっても技術力があつたかどうかは不明。

## ■AMX-103 ハンマ・ハンマ

アクシス(のちのネオ・ジオン)で開発された、改良サイコミュの検証用。ニュータイプや強化人間でないと思えないファンネルに代わり、ニュータイプ能力が低い(もしくは能力のない)パイロットでも使いこなせる有線式攻撃端末を両腕に搭載。スペック上はキュベレイを凌駕したがトータルバランスが高く、とくに改良されたサイコミュは一般兵には通用が困難と判断された。そのため1機が試作されるにとどまっている。



のちにメガ粒子砲3基と機体投射装置を内蔵したシーロードを装備。闘いが得意なため、攻撃力と防御力が格段に向上した。



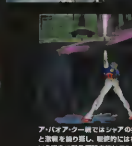
両腕とスカート部分に多数のスラスターを接続。この装置は「スラスト・バーニア・アクレイ」と呼ばれ、従来の機体を上回る機動性を発揮した。

## ■RX-78-2 ガンダム

公国軍のザクに対抗すべく、地球連邦軍が開発したRXシリーズと呼ばれるMS群のうち、最MSとの近接格闘を主眼とした機体。機内型コンピュータやコア・ブロックシステム、宙空のビーム兵器やルナ・チタニウム製の装甲といった新技術をコスト度外視で導入したことで、敵味方が認める高性能機となった。しかし本機の名が後世に置かれるようになったのはアムロのニュータイプ能力が大きく関与したためでもある。



サイコミュは搭載していないものの、アムロのニュータイプ能力によって公国軍のニュータイプ専用機を次々と撃破した。



ア・バオ・アーク戦ではシャアの搭乗するジオングと激戦を繰り出し、絶死のには機体中に燃えている機体に残る死闘を演じてみせた。

# MSパイロット——シャア・アズナブル——

## 人類のニュータイプへの革新を志し その筋道を立てるべく戦った“赤い彗星”

シオン・スマイグの息子として生まれ、母に家父を殺されたキャスバル・レム・ダイクは、復讐を誓ってシャア・アズナブルとしての仮面をかぶった。そして、シオン公国軍に入隊して頭角を現し、やがて勃発したシオン独立戦争のなかでガルマ・サビの謀殺を果たす。だが、復讐心を満たした先にあつたのは平しでしかなく、シャアはそれを埋めるために父が夢見た人類の革新——ニュータイプに希望を抱くようになる。ニュータイプとしての

高い素養を持つ少女、ララ・スンといひ出いもまた、シャアにニュータイプへの革新を予感させた。その障害となるオールドタイプを排除することで、新たな時代への筋道を立てるといふ野心を秘めて、終局へと向かいつつある戦争の真中に身を置いたシャア。しかし、アムロ・レイとの戦いでララを失い、人さな喪失感とアムロへの執着を心に刻むことになる。そして、一年戦争最後の戦場において、すべての因縁に決着をつけようとしたのであった。



シャアの戦う目的は父への復讐からニュータイプの革新へと変化していく。そのためにララを戦場に置き、キシリアとも手を握んだ。だが、アムロという存在がその前に立ちちはだかる。



## シャア・アズナブル

|| DATA

年齢：20歳 所属：ジオン公国軍 階級：少佐→大佐 出身：サイド3 能力：MS操縦、作戦指揮、ニュータイプ



テキサス・コロニーでセイラと再会したシャアは、ニュータイプへの革新を望むシャアを助ける



自らもニュータイプ能力に目覚めていくが、それでもアムロに負けない覚悟に覚醒する



補給のヘルメットとバーズアルカラーを用いたシャアのノーモルスーツ。

### ▶新たな目的のために戦場に舞い戻ったシャアの足跡

U.C0079 10 シャアはガルマ謀殺ののちに彼を守れなかった責任を問われ、宇宙攻撃軍を離れ免れた。だが、表舞台から遠く闇にララと出会い、独自にプラナガン機と接触を図る。その後、キシリア・ザビに招かれて突撃機動軍に籍を移し、11月にマッド・アングラー隊の司令官に就任したシャアは、地球連邦軍ジャブロー基地の発見などの功績を挙げる。だが、主戦場は宇宙に移り、12月にはニュータイプ部隊の独立第300戦隊を任されることになる。そして、ゲリラ戦を

展開するなか、アムロのガンダムに復讐を取り、ララを戦死させてしまう。失意を抱えながらもア・バオア・クー攻防戦に参加したシャアは、シオンに搭乗し第34MS隊とともにSフィールドの防衛にあたった。その戦時で艦隊4隻とMS18機を撃破する大戦果を挙げたシャアだったが、ガンダムとの交戦で徐々に追い詰められ、ついに相手と対峙して乗機を失う。その後、ア・バオア・クー内部でアムロと生身で対決し、痛み分けの末にキシリアを助けて姿を消したのである。



「ムロをア・バオア・クー内部に誘い込み、生命の戦いを賭ける」として



セイラに別れを告げたシャアは、攻防戦の最中にキシリアを助けて消息を断った。





マスクを外したシャア。ヘルメットはアムロとの決戦で破壊し捨てられた。

## ララを中心とした関係のなかで シャアが垣間見せたアムロへの執着

シャアの生涯にわたるアムロとの因縁は、ララの死によって決定付けられた。その少し前からアムロの真意に目をつけていたシャアは、彼を体制に取り込まれたニュータイプとして危険視した。そして、アムロがララと共振現象を引き起こすほどのニュータイプ能力を示した末に彼女の命を奪ったことで、アムロに対する執着は決定的となる。ア・バ・オ・クーでもシャアはアムロをつけ狙い、新機を失ってなおその前に立ちはだかった。「君は自分がいかに危険な人間か判っていない。素直にニュータイプの有りようを示し進め」とは、そのときシャアがアムロに向けた言葉であり、ララを超える力を持ちながら運命という体制に墜没するアムロの危うさを指摘していたといえる。



自身の想いの裏に鬼神性に見舞われるシャアとアムロ。ニュータイプ同士でありながら最後まで相互理解に至らなかった。



ララを巡る対立関係が、アムロとの縁に生じた執着を加速することになる。



シャアはサイド6でアムロと出会っていたが、このときには彼の正体に気付かなかった。

## シャア・アズナブルを巡るさまざまな人間関係



## ▶ ララの献身とシャアの想い

ララは自分の才能を見出してくれたシャアを愛し、彼のために戦おうとした。シャアもそんなララに対して、一線を引きながらも惹かれていった。



シャアは自分と似てそうとするララに心を奪われ、自分も未知の力で戦うの道義として戦う覚悟を決めた。

ララはA組ニュータイプとも呼ばれ、自身も未知の力で戦うの道義として戦う覚悟を決めた。



## ▶ MAIN MS

### MSN-02 ジオンク

公国軍が開発したニュータイプ専用MS。サイココミュニケーションで制御される有機誘導式メガ粒子砲を備え、高い火力を発揮した。



### YMS-14 シャア専用ゲルグ

公国軍次期主力艦隊MSの先行量産機で、その1機がシャア専用機とされた。ガンダムとの交戦で破壊し、シャアはジオングに乗り換えることになる。





## 激戦を通してシャア的能力を引き出した試験機

一年戦争末期に大戦投入されたものの戦闘回数は少ないオンタナニュータイプ専用機として語るべき十分な戦果を残している



### フラナガン機関

ニュータイプの研究と能力の軍事転用を目的に、サイド6のバルタ・コロニー（リノ・コロニーとの説もある）に設立された研究施設。ジオ公国軍実業機動軍司令官シリア・サビの指揮の下、フラナガン博士を中心に研究が行われた。

### サイド3

ジオ公国本国が位置するスペースコロニー群の総称。地球から最も遠いサイドであることから、昔からスペースノイドの偏愛が高く、ジオン・ズム・ダイクワの指揮の下、ジオン共和国として独立したことも知られる。

### ソロモン（コンペイトウ）

公国軍の本土防衛の要となる宇宙要塞。地球連邦軍が占拠してからはコンペイトウと改称。連邦軍の前哨地となった。

### ア・バオア・ワーク

一年戦争最後の激戦が行われた宇宙要塞。戦後はジオン共和国が管理していたが、ティターンズに接収された。

01

### フラナガン機関、設立

ジオン・ズム・ダイクワが提唱した人の革新たるニュータイプは、当初は、あくまで概念上のものと考えられていた。だが光速に近い速度で飛来するビームを回避するパイロットの報告が寄せられ、特殊な脳波（脳波と命名）が検出されたことでニュータイプの存在が実証。これにジオン公国軍やシリア・サビが興味を示したことから、ニュータイプ能力の研究を行う特殊研究機関「フラナガン機関」が設立された。



フラナガン博士を中心とするこの機関は多くの研究者を調査・研究対象とした。被験者のなかには年頃でない子供も含まれていたようだ。

02

### ニュータイプ専用機の誕生

調査と研究を進める過程でフラナガン機関は、ニュータイプの発する感応波を、ミソフスキー通信を利用して送信し、機械を遠隔操作するシステム（サイコミュ/サイコ・コミュニケーター）を開発。これを軍事に用する計画が立ち上がった。サイコミュを搭載した機動兵器、ニュータイプ専用機の誕生である。だが当初はサイコミュの小型化が難しく、大型機動兵器であるMAクラスにしか搭載できなかった。



「ラウ・ブロアエル」は、いったニュータイプ専用MAが次々と開発されたが、ガンダムとの戦闘でパイロットのニュータイプ能力が失われていた。

03

### 未完成状態で投入

U.C.0079.12.31、一年戦争の最終局面となる公国軍宇宙要塞ア・バオア・ワークを巡る攻防戦が開始された。この要地を突襲されると公国本土であるサイド6に攻め込まれる危険性が高いため、公国軍としてはまさに正念場の戦いである。序盤は公国軍が有利に展開していたが、キシリアは新型ニュータイプ専用MS「ジョング」の投入を決定。独立第300戦隊を率いるシャア・アズナブルに機体を託した。



当初はジョングの投入でシャアは未完成の機体だと聞いたが、機体は脚部などを削りだし、機体の使用と整備を要する。

## 戦況の経緯

U.C.0079.01.03、公国軍による宣戦布告と同時に実施された電撃的強襲で幕を開けた一年戦争だが、当の公国軍は短期決戦を予定していた。地球に比べて物・人的資源が不足するコロニー国家が長期にわたる戦争を行うのはたゞに国力を消耗するだけだったからだ。そこで彼らが徹底的に連邦軍を叩き、己の能力を十分に発揮しうよう有利な講和条約に固む——これが公国軍の望んだ戦争の推移だった。ところが望に反して連邦軍は徹底抗戦を表明。あまつさへ独自にMSを開発し、公国軍への反旗の意思を示した。こうして一年戦争は好むと好まざるとにかかわらず長期化したのだ。

### U.C.0079

- ・1月3日 一年戦争、勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対して独立を宣言。宣戦布告と同時にサイド1、2、4に奇襲攻撃。
- ・1月4日 サイド2の8パンチ・コロニー「アイランド・イフィッシュ」、地球落下コースに入る。
- ・アイランド・イフィッシュ、オーストラリアに落下。
- ・1月15日 ルウム戦役、勃発。
- ・連邦軍第一混合機隊降参、撃沈。艦隊司令官レベール、公国軍捕虜になる。
- ・1月25日 公国、サイド6を通して連邦政府に停戦条約締結の申し入れを行う。
- ・1月31日 南極条約、調結。レベール、奇跡の生存。

- ・2月7日 公国軍、地球降下作戦、開始。
- ・3月1日 公国軍、オデッサ地区の連邦軍鉱山基地を占拠。
- ・3月11日 公国軍、連邦軍キャリフォルニア・ベースを制圧。
- ・公国軍、地上の3分の2を勢力下に置くが、戦線維持に努力を取らねば結局は戦線後退。
- ・4月1日 連邦軍、V作戦とピンポン計画、発動。
- ・7月 RX-78ガンダム1号機、ロールアウト。
- ・8月 連邦軍、試作型MSの最終テストをサイド7で開始。
- ・9月15日 ホワイトベース、サイド7に移動。コロニー内で史上最大のMS戦が発生する。

## ガンダムとの攻防

ジオングで出撃したシャアはア・バオア・クーの防衛部隊のひとつ、Sフィールドに向かった。地球連邦軍主力艦隊はNフィールドに建設しつつあり、防衛部隊と激しい交戦を繰り返していたため、本来なら増援としてNフィールドに向かうべきであった。しかしSフィールドからも連邦軍部隊が攻撃を仕掛けており、艦隊のなかにホワイトベースが確認されたことがシャアの注意を引き付けた。この前日(12月30日)の戦線でエルメスとララ・スンと失ったシャアは、ララの仇を討つためにガンダムとの決着を望んでいたのである。そしてSフィールドに到着したシャアはガンダムを発見するや、ただちに攻撃を仕掛けた。

ジオングの機体に対しては、いかにガンダムに対してオールドレンジ攻撃を仕掛けてシャア、通常の相手ならば必中の一撃だったのだが……。



攻撃が命中する直前、いかに撃つように準備をさせたガンダムは、一重の盾でシャアを退。これはシャアも計算を及ぼさなかった。

Vガンダム

## MS OTHER 戦記

## 連邦軍のニュータイプ研究

ニュータイプ研究に意欲的だった公国軍に対して、一年戦争当時の地球連邦軍はニュータイプの存在そのものに懐疑的だった。その存在を認めることは、かつてスペースノイドの自治独立を誘ったジオン・ズム・ダイクンの主張を受け入れることにもつながり、覆面にならざるを得なかったのだろう。しかし公国軍のニュータイプ専用機が想定外の戦果を挙げたことで連邦軍もニュータイプ研究に着手。RX-78NT-1アレックスのような専用機を建造した。とはいえ本格的な研究が開始されたのは一年戦争以降となる。公国から入手した研究データや亡命した研究者の存在が、連邦軍のニュータイプ研究を飛躍的に向上させたのだ。問題は倫理面での向上が見られなかったことだろう。公国軍残党を仮面と見なした連邦軍はニュータイプ研究で成果を挙げた必要があり、そのためには研究者の倫理や経験者の人権にはあえて目ををつづつたのである。



戦後、オースタ基地に併設されたオースタ研究所では、ティターンズ主導の下、戦災孤児に見込みのある若手を収容、強化人間開発の被験体として実験を繰り返した。



グリプス戦役後に研究所には志願者が入り、被験体となった子どもたちは解放されている。だが行き場を失った一部の子どもたちは再び軍に身を寄せていた。

Vガンダム

## 次第に劣勢に……

激しい攻防戦を繰り返すうちに、ガンダムのバリエーションは増えつつあり、それに触発されたかのように、シャアもニュータイプ能力を開花させ、「見えるぞ、私にも敵が見える」との声をあげている。しかしアムロの能力はシャアのそれを上回り、ジオングの火力と機動性をもってしてもガンダムに損害を与えることは困難だった。逆にガンダムの攻撃は的確にジオングを捉えるようになり、次第にダメージが蓄積していく。しかもアムロの意思がブレインジャーとなって顕いかり(直はララを救いに巻き込んだ)シャアに激しい怒りを感じていた、シャアは次第に劣勢に追い込まれていった。

激戦の最中、互いに接近したガンダムとジオング。この時、ガンダムはほぼ無傷だったが、ジオングは左腕とサイドスカートに被害を受けている。



ついに両体を射抜いたジオング。しかしシャアは両部を分離させて撤退。反撃とばかりに敵一撃で、ガンダムの両部を破壊することに成功した。

Vガンダム

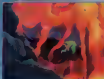
## 両雄、相討つ

ガンダムの両部と左腕を吹き飛ばしたとはいえ、ジオングの受けた損害もはなはだし、胴体に残っているのみ。たまたまシャアはア・バオア・クーの奥へ退避したが、ガンダムも機体を押して追撃を断絶する。その途中、アムロはガンダムを自動機に転換して、自ら機体外に脱出。事態の推移を見守るのだった。すると、ある区画まで移動したガンダムが、突如、ビーム・ライフルを両手に向け発砲。そこにはジオングの胴体が浮かんでおり、至近距離でビームが直撃したことで胴体は大破してしまふ。しかし攻撃を受けたがシャアも反撃。ジオングの最後の一撃はガンダムの右腕と右腕を溶解させることに成功した。こうしてジオングとガンダムの戦いは相打ちという形で決着したのである。



アムロの意思が乗り移ったかのように機上に「アムロ」を放つガンダム。この直後、十分にデータが蓄積した教育型コンピュータの成果と見る一方、アムロのニュータイプ能力の限界と考える向きもある。

破壊しきれないビーム放つジオング。この一撃がガンダムを大破に追いやったのだが……



ジオング自体も爆発して果てている。ただしシャアは脱出に成功し、要塞内部に潜り込んでいる。

Vガンダム

## 理想と私欲のあいだに生きた男

ジオングを失ったシャアはガンダムを乗り捨てたアムロと決闘を行い、戦いの果てにニュータイプを中心とする社会構築を志すようになった。「人類の革新」として暮らした存在が戦場の道具に使われる悲劇を繰り返したくなかったからだ。その一方で父ジオン・ダイクンの仇討ちの念は消し難く、混乱する戦局を利用してキシリアを謀略。過去の因縁を断ち切ろうとした。しかし、戦いの火種は戦後も消えず、シャアも戦いから逃れられなかった。

決闘を通してアムロと精神的な交感を行ったシャアは、一旦はわだかまりを捨てている。しかしララを殺されたという思いがつかまざり、彼を倒した。



奥から脱出を図るキシリアを討ち取ったシャア。その後、彼は小惑星アウクスに向かう機体に加わり、しばらくの間、歴史の業を背負って生きている。

## U.C.0079

- ・11月 連邦軍、ジムを使用した実験データ収集部隊を設立。
- ・11月7日 連邦軍、オデッサ作戦を開始。
- ・11月9日 オデッサ作戦、終了。以後、欧州からアジア地区における公国軍勢力は衰退を始める。
- ・11月30日 公国軍、ジャブロー降下作戦、開始。
- ・12月24日 連邦軍、ソロモン攻略戦、開始。
- ・12月31日 連邦軍、ア・バオア・クー攻略戦、開始。
- ・一部の公国軍部隊、独自判断で戦線離脱。
- ・ジオン共和国、連邦政府との終戦協定締結を宣言。
- ・ア・バオア・クー、陥落。

## U.C.0080

- ・1月1日 一年戦争、終結。

ニュータイプ専用MSとして開発され、不完全な形態ながらア・バオア・クー攻防戦で多大な戦果を挙げたジオング。本機のコンセプトは、その後も引き継がれていくこととなる。

### KEYWORD

#### ア・バオア・クー

ジオン公国軍の宇宙要塞で、最終決戦の一角を担った。工場のほか、ソーラ・レイも備えるなど、要塞と工場な機能を有した。

#### ア・バオア・クー攻防戦

一年戦争最盛の大規模な戦いで、U.C.0079.12.31に発生した。地球連邦軍、ジオン公国軍の間で激戦が繰り広げられたが、最終的に連邦は陥落、戦争終結の要因となった。

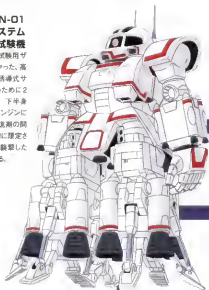
#### サイコミュ

サイコ・コミュニケーションの略。ニュータイプの発する感応波を受信し、電圧信号へと変換することで有線、無線式の攻撃端末の運用や機体制御を可能とした。

#### MSN-01

#### サイコミュ・システム 高機動試験機

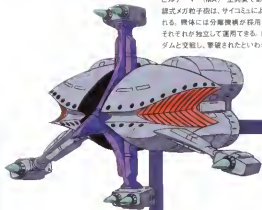
サイコミュ・システム試験用ザクでは試験ができなかった、高機動時における有線誘導式サイコミュの試験を行うために2号機を改造した機体。下半身が大出力ロケット・エンジンに換装されているが、推進剤の問題から、運用は短時間に限定された。コンバイトウを模した機体も確認されている。



コンセプト採用

#### MAN-03 ブラウ・プロ

ジオン公国軍が開発したニュータイプ専用モビルアーマー(MA)。主武装である4基の有線式メガ粒子砲は、サイコミュによって制御される。機体には分離機構が採用されており、それぞれが独立して運用できる。RX-78ガンダムと交戦し、撃破されたといわれる。



データ  
フィードバック

発展

改造



#### YMS-06Z

#### サイコミュシステム 初期試験型ザク

「ビショップ計画」の前段階の試験機で、ニュータイプの少女(マリオン・ウェルチ)の専用機だったといわれる。機体各部にスラスターを増設したほか、背部には有線式ピットを備える。テスト機として運用され、本機で得られたデータは開発機の開発に生かされた。

#### MS-06Z

サイコミュ・システム試験用ザク  
ジオングのテスト機とした開発されMSのうち1機。ザクBF型のメインフレームを流し、それ以外はジオングのシルエットや機構を考慮した設計がなされたが、稼働時間は10分程度だったとされる。本機のコードネームは「ビショップ」で、開発計画は「ビショップ計画」と呼ばれた。

## MSN-02 ジオング

ジオン公国軍が開発したニュータイプ専用MS。脚部は装備しておらず、メイン・スラスターを主推進器として使用する。全身に計13基ものメガ粒子砲を有しており、前胸部は有線誘導式となっている。ア・バオア・クー攻防戦に投入され、ガンダムを大破させた。



本来の完成形



### YAMS-130 クラーケ・ズール

サイコミュ・システム高機動試験機のコンセプトを、U.C.0096の技術で再現した機体。脚部とは別に肩部にメガ粒子砲内蔵式の有線誘導式攻撃弾を装備している。また、下半身は大推力スラスターユニットに換装されており、高機動機に匹敵する推力を誇る。また、背部に長距離航行用の大型プロペラント・ブースターを取り付けることも可能。

### MSN-02 ジオング

#### (パーフェクト・ジオング)

脚部を装備した第1試案仕様の機体。全高は35メートルにも及ぶが、脚部を付いたAMBACにより、姿勢制御が容易となるはずであった。高い完成度を見込めたが、実戦投入されずに終戦を迎えた。



## AMA-X2 ノイエ・ジール

アクシズが開発した試作MA。メガ粒子砲を内蔵した有線式クロー・アームや大小のミサイルに加え、1フィールド・ジェネレーターを有するなど、高度な攻撃力を兼ね備える。先進艦隊によってデラース・フリートに引き渡され、「星の盾」作戦の最終局面に投入された。



発展

## AMA-X4 アハヴァ・アジール

アクシズ内のマハラジャ・カーン記念研究院で開発されていたMA。メガ粒子砲やテール・ファンネル、1フィールド・ジェネレーターを装備する。またニュータイプ専用の精神感应技術の試作機的な機体と言われる。未完成の状態で放置されていたが、U C 0096に突如として投入された。



発展

## MRX-009 サイコ・ガンダム

地球連邦軍のニュータイプ研究所のひとつ、「ムラサメ研究所」が開発した大型可変MA。ジオングの開発コンセプトがベースとなっている。サイコミュを用いた火器管制や機体制御を採用しており、遠隔操作も可能。変形した状態は、「モビルフォートレス（MF）」形態と呼ばれる。



発展

## ORX-013 ガンダム Mk-V

ティターンズの依頼を受けたオーガスタ研究所が開発した試作機で、MRX-009 サイコ・ガンダムのコンセプトを踏襲するとともにダウンサイジングを果たした。機体各部がユニット化されるなど、整備性も向上している。ビーム・ライフルやビーム・サーベルといった標準的な武装に加え、準サイコミュ制御によるインコムを装備する。



コンセプト  
ダウンサイジング

## AMX-103 ハンマ・ハンマ

ネオ・ジオン（アクシス）が開発した試作機。一般兵の操縦する重戦機にサイコミュを搭載することを目的として開発された。両腕が有線誘導式のビーム砲となっているほか、各部のスラスターによって極めて高度な機動性を有している。



# NZ-333 α・アシル

ネオ・ジオンが開発したMAで、  
ジオン系屈指のニュータイプ専用機  
の重大成とも呼べる機体。サイ  
コミュメカ、アーム砲、ファン  
ネルなどを装備し、高い攻撃  
力を持つ。また、後援用として  
ノルム・スラスターユニットも  
用意された。



発展

発展

# NZ-999 ネオ・ジオング

全高100mを超えるハイコロトに、  
アムロを装着させた機中攻撃用巨  
大MA。アムロのインフィニ  
ティ・システムを介するこ  
とで、多数の大型サイコミュ兵器を  
ひとりのパイロットが操作できる。  
なかでもサイコネット発生装置はハ  
イコロトの望も脳内イメージを具現  
化する効果があり、人語を超えた特  
異性といへば可装置。



発展

改修



# AMX-014 トーベン・ウルフ

第一次ネオ・ジオン戦争末期にネオ・ジオンが開発、投入  
したMS。カンタムMK-Vをベースとした機体で、一般兵  
でも操作可能なサイコミュを搭載しており、第四世  
代MSに分類される。また、第四世代MSとしては珍しく  
複数機が生産され、部隊運用されたことも知られる。



# ARX-014 シルヴァ・バレット

第一次ネオ・ジオン戦争後、地球連邦軍が回収した  
トーベン・ウルフをアナハイム・エレクトロニクス社が改修し  
た機体。改修はオースタ研究所出身のスタッフによ  
って行われ、装甲材質や外装を変更したことで軽量化と高  
い機動性を獲得するに至った。ファンネル試験機などの  
バリエーションも開発されている。







# MSN-02 ZEONG



## 宇宙用の局地戦用機にして MSの本質的姿

宇宙空間での運用に特化したMSが「宇宙用MS」である。宇宙における戦闘能力を追求したMS-06R 高機動型ザクII、脚部や地上用走行システムを持たない宇宙専用のニュータイプ用MS・MSN-02 ジョングなどが該当する。

陸戦用MS同様、宇宙用MSは局地戦用MSにおけるひとつの κατηγοリーを形成しているが、元をたどればMSの本質的な姿であった。MS誕生の直接的契機となったジオン公国軍の「次期主力汎用戦術兵器」開発では、宇宙（とスペースコロニー内）用のミノフスキー粒子環境対応兵器が求められた。つまり、MSは最初から宇宙用機動兵器として開発されており、そこにスペースコロニー内での運用能力、ひいては陸戦能力が付与されたと考えていい。宇宙用MSの想定運用は宇宙が「主」、地上／スペースコロニーが「従」という位置付けなのだ。

MSの発展と多様化が進むと、宇宙用MSのなかに地上での運用能力を犠牲にしてまで空間戦闘能力を強化した機体が出現しはじめた。上述の高機動型ザクIIやジョングが顕著な例で、宇宙用MSの新たなイメージとなった。

# 宇宙用MS

元来MSは宇宙用の機動兵器であり、ザクⅡF型などの大気圏内外両用MSも宇宙での運用に  
集きを置いた機体が目立っている。高機動型ザクⅡに端を発する、空間運用能力を追求したタ  
イプは局地戦用MSの一分類として定着し、宇宙用MSは多様な発展を見せることとなった。



## 宇宙に適した装備とその機能と効果

MSは、その始祖にあたるZi-XA3 (MS-01)の時点で既に宇宙用であった。MSを生み出したジオン公国が宇宙を拠点とし、地球連邦宇宙軍との戦闘を想定した以上、ミノフスキー粒子環境対応兵器を宇宙用として開発したのは当然の流れだった。宇宙で不要に思える四肢ユニットを削減するのは、コロニー内で運用(歩行)も想定されたこと、推進剤を消費しない姿勢制御機構「AMBACシステム」として機能することが主な理由となっている。

史上初の実戦用量産MS-05 ザクI、そして一年戦争を通じて公国軍のワークホースとして活躍したMS-06 ザクIIの最初期型にあたるMS-06A ザクII A型は、宇宙用MSの性格を強く持っていた。特にザクII A型は降戦(地球上での運用)に対応しなかった。

この傾向が変化しはじめたのが、公国軍の局地戦用MSの開発と、その影響を受けたMS-06C ザクII C型の誕生であり、宇宙用MSの降戦能力は徐々に向上していった。

## MORE INFO

### 非MS・MAの宇宙用機動兵器

一年戦争に投入された宇宙用機動兵器には、MS、MA、そしてRB-79 ボールやMP-02A オグなどのモビルボイドがある。連邦軍が簡易MSに分類したことから理解できるように、モビルボイドは簡易な構造の機動兵器で、ごく一部の派生型を除けば宇宙専用機だった。戦闘能力こそ低かったが、陸戦能力の欠如もあって生産性は高かった。

### RB-79 ボール

連邦軍の機動兵器。宇宙用作業ボイドをベースとしており、地上やコロニー内部では運用できない。MSの支援や集団戦術で戦果をあげた。



### MP-02A オグ

公国軍のモビルボイド。不要になったザクII型の無価値部品や良材などを流用した宇宙専用機動兵器で、戦闘能力はボールに勝った。



## 宇宙用MSの特徴—空間用装備の重視

宇宙用MSは、四肢ユニットを備える機動力駆動機としての側面を強く持ち、搭載機器はその機能を十分に活かすためのもので占められている。コロニー内での運用も想定されているが、肝心の空間運用でデッドウェイト化してしまう大気圏内用(陸戦用)機器は、可能な限り搭載しない。

### 1 推進器の重視

宇宙では推進器がほぼ唯一の移動手段であるため、宇宙用MSは推進器への依存率が高くなる。主推進器は熱核ロケット・エンジンが一般的で、化学燃料ロケット式の高機動バーニアや姿勢制御バーニアも搭載する。



### 3 非空冷式の冷却システム

当然ながら宇宙では空冷できないため、赤外線の色で熱を逃がす放射(輻射)や、推進剤に熱を吸収させてそれを噴射して加熱するといった方法を採用。放射は放熱板や装甲表面などが放射するため、その表面は極めて高温となる。



OG環境、大気の不斉(真空)、自然光と非日明面の極端な温度差など、宇宙用MSには対処すべき技術的制約が多い。

### 2 AMBACシステムの重視

宇宙では推進剤の消費を極力抑える必要があるため、非ロケット式の姿勢制御機構「AMBACシステム」が重視される。ただしジオングのように脚部をもたない宇宙用MSは例外で、姿勢制御をバーニアに依存する。



### 4 大気圏内用装備の軽視または廃止

コロニー内では有効でも、空間戦で不要となる大気圏内用の装備はほとんど、またはまったく搭載されない。空冷式ラジエーター、熱核シエック・エンジン、大気層を想定した開降装置などがデッドウェイトとなってしまったためである。



## 宇宙用MSと陸戦用MS

宇宙用MSは、宇宙での運用を主に重いた仕様ではあるが、MSの基本機能である大気圏内運用能力(降戦能力)も有する。熱核ロケットなどの宇宙用装備は、効率的とまではいえないものの大気圏内でも機能するうえ、脚部による歩行が可能であるためである。当然、宇宙での戦闘能力は、陸戦用MSより圧倒的に優れている。

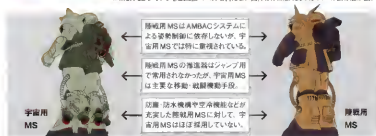


過酷かつ多様な環境の地球上では性能低下を命をなげけるが、コロニー内では必要十分な戦闘能力を発揮する。

## ■宇宙用MSと陸戦用MSの機能傾向の違い

	宇宙用MS	陸戦用MS	大気圏内外両用MS
宇宙適性		×	
地上運用(コロニー内)	△	○	○
地上運用(地球上)	×〜	○	○
推進剤への依存	×	○	○
二足歩行システムへの依存	×	○	○
AMBACシステムへの依存	○/×〜△※	×	○
主要推進部の仕様	熱核ロケットエンジン 放射	熱核ジェットエンジン、 熱核ハイブリッドエンジン 空冷 液冷(推進剤含む) 放射	熱核ハイブリッドエンジン 空冷 液冷(推進剤含む) 放射
冷却システム	液冷(推進剤含む) 放射	空冷 液冷(推進剤含む) 放射	空冷 液冷(推進剤含む) 放射

※MSN-02 ジョングなど四肢ユニットを持たない機体は、AMBACシステムへの依存度が低い。



## 宇宙特化型と 宇宙汎用型への分岐

サクリ型を経て開発されたMS-06F サクリD型も宇宙用の主力MSだが、地球侵襲作戦の初期段階に投入されるほどの陸戦能力を有していた。以後「宇宙用であっても地球上で戦闘可能な機体が登場し、1970年代のヘス・バスター宇宙MSやZMS-09バスター・ハコなど、機体番号末尾が「D」の機体は、JG環境でも高度な戦闘能力を発揮するにつれて、

一方で、陸戦能力を限定または排除し、空間戦闘に特化した宇宙用MSも開発されるようになった。その最初期の機体が高機動型サクリDで、それまで最高の性能を誇ったMS-06F サクリD型より速い空間戦闘能力を発現した。サクリD型の後継となった宇宙用主力MS、MS-09R リック・トムも、MS-09Dを空間戦闘用に改修・強化させた機体だった。

さらなる宇宙特化型として、脚部を機動ヘイスに換装したMS-09Rの「ガンダム」も開発されたが、多機能がないため陸戦への対応は困難であり、MAに近い機体となった。

## 宇宙用MSの分類

ひと口に宇宙用MSとでも、空間運用能力と大気圏・コロニー内運用能力の比率によって、いくつかに分類できる。それが以下の3分類。分類方法は本誌独自のもの。宇宙での運用に完全特化したタイプから、宇宙内外両面MSに近いタイプまで様々である。一年戦争期には「タイプ分類が混在」していた。

### ■宇宙特化型

空間運用能力と大気圏内運用能力の比率が8:2から9:1ほどの宇宙用MS。空間運用を強く意識した機体であり、大気圏内運用はコロニー内に対応する程度でしかない。高機動型サクリが代表的なMSだ。



一年戦争中期など主戦場が宇宙に固定された時期によく見られる。セーティングによっても地球上への対応は困難。

### ■完全宇宙型

宇宙と大気圏内の性能比が10:0の機体。脚部を機動デバイスとすることで、宇宙での運用に特化している。MA的な仕様であり、AMBACシステムへの依存度は高くない。宇宙用高機動MSの側面を強く持つ。



歴代MS・MS-21シ・ラッパ、巨大MA・NZ-333 オ・アールの前線機にあたるNZ-222 サイコトカーなどが該当。

### ■宇宙汎用型

宇宙と大気圏内の性能比が6:4〜7:3はとのMS。一部装備の換装やセーティングの変更により、地球上での運用にも対応できる。陸戦用MSとはではないが、当然、必要十分な空間運用能力を有している。



公国軍の第一降下作戦に参加したサクリは、宇宙用のF型だったという。ヘスバでも宇宙用MSを地球上に投入。

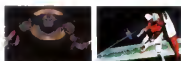
## 換装による宇宙用MS

オプション装備により、宇宙特化型や完全宇宙型の宇宙用MSに換装可能な機体も存在する。RX-78GP01 ガンダム試作1号機を宇宙特化型に換装した同フルバーニアン MSA-0011 Sガンダムを完全宇宙型と見た同[Bst]型などが該当する。RX-160 ハイアラのようにはば推進器のみの換装で宇宙用とする例もあつた。



RX-78GP01  
ガンダム試作1号機

RX-78GP01-Fb  
ガンダム試作1号機  
フルバーニアン



MA的MSの完全特化型は少なく、数えられる。連邦軍ではほぼ見られず、宇宙特化型や宇宙汎用型が多かった。

MS-09R リック・トム  
陸戦用MSドムの宇宙用改修機。大気圏内用装備は除去され、宇宙用機体と大容量の燃料房を搭載した。



RX-78-4[Bst] ガンダム4号機  
宇宙用の高機動機。頭は「ソルダージュユニット」とプロペラントタンクを搭載した[Bst]仕様である。

MSN-02 ジョング  
脚部を持たない第2試案のジョング。脚部の代わりに大型推進器を搭載し、爆発的推進力を有する。



YAMS-130 クラーク・ズール  
サイコ・技術を用いたギラズールの改修機。脚部は推進器機能特化の大型力スラスターゴッド。



MS-06F ザクII型  
もっとも一般的なザク。宇宙で最大限の性能を発揮するが、地球上でも旧来の兵器を圧倒してきた。



RGM-122 ジャベリン  
U.C.0120年代から配備された。連邦軍の宇宙用主力機MS。ゼンス・カール戦争では地上戦にも参加。



MSA-0011  
Sガンダム  
MSA-0011 [Bst]  
Sガンダム  
(ブラスターユニット換装型)

## TECHNOLOGY INFO

### コロニー内 近傍での運用MS

地球圏全域が戦場となり得る宇宙世紀の紛争では、民間コロニーの内部や周辺面域にMSを投入する状況も発生する。宇宙用MSはこうした事態にも対応可能だが、一年戦争時にはより専門性の高いMSが開発された。連邦軍のMS・コマンドや公国軍のゲルググMがそうした機体の一部である。戦後、MSの高性能化や多機能化もあって、こうした機種は減少した。



ディターンズ発足初期の主力MS・RGM-79G ジム・コマンドも、最終的にはコロニー内用の側面を持っていた。

### RGM-79G ジム・コマンド

コロニー内での運用を主目的とするシムの派生機。系列機のGS型はコロニー周辺用の宇宙戦仕様の機体である。



MS-14F ゲルググM  
機体名のM（マリーネ）が示す通り、海兵隊仕様MS。コロニーへの上陸作戦も想定任務のひとつだった。

# マニピュレーター

MSは人間を模した形状が特徴の機動兵器だが、なかでも五本指マニピュレーターは、人間の手に極めて近い構造と機能を有している。このマニピュレーターがMSの多用途性や高度な作業性能の一翼を担っているのだ。

## 人間の「手」にあたる 五本指マニピュレーター

MSの腕部ユニットの末端に備えられたマニピュレーターは、人間の「手」に類似した五本指タイプが一般的である。MS用マニピュレーターの構造は、人間が手先を使って行う作業を、MSも実行可能なことを意味している。具体的には、ビーム・ライフルやバズーカやマシンガンといったMS用手持ちオプションの使用、乗組物の保持、人型ハッチ開閉装置の操作、手信号による意思疎通、付属センサーによる接触物の調査などが該当する。

こうした構造と多機能性は過剰に思えるが、MSの始祖であるZI-XA3（MS-01）の時点ですでに有効性が認められていた。ZI-XA3のマニピュレーターはマジックハンド風だったが、ハッチの開閉操作に対応しており、宇宙からコロニー内へのアクセスを容易とした。その後、機行兵器の使用と組み立て・分解作業への対応が求められた結果、少なくともMS04プロトタイプ・ザクAの時点で五本指マニピュレーターが確立されたのである。

## MS用マニピュレーターの構造

MS用の五本指マニピュレーターは、人間の「手」とほぼ同様の構造と機能を持ち、手持ちオプションの使用や各種作業、センサー類による接触対象のサーチなどを可能とした。マシンならではの機能としては、手持ち装備との接続（原価・エネルギー供給系のリンク）、マルチ・ランチャーの装備などがある。

### ■関節

人間の手と、ほぼ同じ位置に関節が設けられており、可動範囲も人間のそれに準じる。

### ■センサー（指部先端ほか）

圧圧、温度などに対応するセンサーを搭載、接触対象のスクリーンが可能である。

### ■制御系コネクタ（軍部）

手持ち兵器とMS本体の兵器管制装置（照準装置）をリンクさせるためのコネクタ。

### ■補助動力系コネクタ（軍部）

ビーム・ライフルやビーム・サーベルにMSのジェネレーターからエネルギーを供給。安定的な運用と火力の維持を行う。

### ■通信回線

接触対象と直接通信（有線通信）するためのシステム。

### ■マルチ・ランチャー（指部、手甲部ほか）

コロニー外壁 艦船用の補修剤、消火剤、信号弾、ダミーなどを射出する多目的ランチャー。

## 1 手持ちオプションの使用

ビーム・ライフルをはじめとする手持ち兵器、レーザー・トーチなどの作業用装備を使用する。一般的には手持ち兵器の使用が、主な用途となる。



## マニピュレーターの用途

MS用マニピュレーターの第一の用途は、手持ちオプションの使用。第二は兵器の組み立てを含む各種作業であり、他の用途は副次的なものに過ぎない。ただしマルチ・ランチャーや通信は状況によっては極めて有効なうえ、特有の高度な作業性が人命救助でも役立つなど、多機能なMS用ユニットとなっている。

## 2 作業

兵器の組み立て・分解、乗組物の運搬（保持）、コロニーのハッチの開閉などの各種作業。人間の救助や搬送、パイロットの乗降にも用いられる。



## 4 通信

MS、MA、艦船などと接触・通信回線を開く。人間の手と同じく、手信号を送ることも可能だ。当然、どちらもミノフスキー粒子による妨害を受けない。



## 3 ドッキング

サブ・フライトシステムや艦船に設けられたハンドルを握ることで、簡易的なドッキングを行う。ときには救助などのためMS同士で「手をつなぐ」こともある。



## 5 マルチ・ランチャー

内蔵装備のマルチ・ランチャーから、補修剤（いわゆる「トリモチ」）、信号弾などを射出することで、戦況、非戦闘時にかけかわる多様な状況に対応する。



## マニピュレーターの発展

MS用マニピュレーターは時代を経ても大きな変化がないように思えるが、「手」としての基本機能を維持しつつアップデートが繰り返されている。大きな変化が訪れたのは、各軍で共通規格化が進んだ一年戦争期。マルチ・ランチャーが普及したU.C.0080年代後期、そして小型化が求められたU.C.0100年代だった。

### ■U.C.0080年代後期

U.C.0080年代後期に入ると、マルチ・ランチャー搭載モデルが加速度的に普及した。U.C.0090年代の各軍共通規格モデルでも、標準的に搭載されることとなった。



### ■U.C.0100年代以降

第二期MS（頭頂高15m級の小型MS）の開発にもないマニピュレーターも小型化。Vガンダム用のように、通信回線・センサー共用の射出式ワイパーを備えたモデルも登場している。



## TECHNOLOGY INFO

### 特殊なマニピュレーター

MSのマニピュレーターはオプション運用能力と作業性能に秀でる五本指タイプが一般的だが、この範疇に収まらないものも存在する。これは非戦闘用や固定兵器装束のMSに見られる傾向であり、陸戦化や兵隊との一体化が試みられた。ちなみにMAでは五本指タイプはほとんど採用例がなく、マジックハンドタイプやクロータイプが大半を占めた。

### ■兵装一体型

手部長マニピュレーターが兵器（武器）と一体化したモデル。指が機身を兼ねる機体が多く、可変MAのサイコ・ガンダムシリーズでも採用されていた。



グフのフィンガー・バルカン砲が最初期のもの、ドーペンウルフのハンド・ビームは掌に内蔵していた。

### ■マジックハンド クロー型

精密な構造のマジックハンドタイプは、機行兵器を扱う必要のない作業用MSや「隠し腕」などのサブ・アームで採用。クローは水陸両用MSが多い。



クロータイプは作業性能こそ著しく低いものの、近接格闘兵器として機能する。

# ア・バオア・クー

一年戦争の決戦場となった宇宙要塞ア・バオア・クーは、ジオン公国と運命をともにしたかに思われた。しかし、グリプス戦役で再び変質化され、新たに「ゼダンの門」と名づけられると、ティターンズの後方拠点となった。







## ■ア・バオ・アークの施設

他の資源小惑星転用型の宇宙要塞・基地と同じく、ア・バオ・アークの内部は坑道を利用した通路をはじめ、軍事基地として運用するための司令部や港湾、長期滞在用の兵舎などの施設が点在する。なお、軍事基地化後も資源小惑星＝鉱山衛星として使用された。一方、一年戦争初期までは工廠、鉱山、港湾として主に使用されたようだ。



20～30km 程度の宇宙要塞であつたため内部も広大。大小さまざまな内廊、通路が張り巡らされており、出入口となる港湾や機械も多かった。

## 司令室

ア・バオ・アークの最高司令施設。要素のみならず、周辺宙域に展開する宇宙艦隊にも指示を出すことができる。図はア・バオ・アーク攻防戦時のもので、ティターンズ時代には別の司令室が使用された。



## 来賓室

賓客用に作られた、ジオニズム文化運動風の意匠の部屋。ア・バオ・アーク攻防戦の最中、アムロとシャアが生身で決闘を行った。



## 大型通路

MSが歩行して通行可能なほど大型の通路。坑道を利用したものが多いようで、岩壁の露出量幅が広い。自動操縦のガンダムがジョングの脱出装置を撃墜したのも同様の場所だ。



総戦後、連邦軍が内部調査のために使用した通路。頭頂高13m 位のホールでも、問題なく通行可能であった。

MSの移動、陸部隊に侵入された際の迎撃の要塞性などから、MSが交戦可能な大型通路が目立っている。



## ホワイトベース着底部

ア・バオ・アーク攻防戦終盤、ホワイトベースが着底した港湾設備。MSサイズの複数の通路に面していたため、ホワイトベースは公国軍防衛MS部隊の攻撃を受けた。



## MS格納庫

ハンガーデッキを兼ねるMSの格納設備。工廠と一体化したのも存在する。各格納庫は複数の通路に面することで、突進・帰還ルートの安全性を確保したと思われる。



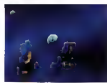
## セントラル・タワー

「象」にあたる上部小惑星の頂上部に位置する中央管制タワー。右図は戦時で損傷したもので、のちに完全に失われたようだ。「セダンの門」時代にも再建されなかった。



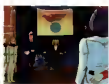
## 全天周モニター室

「セダンの門」時代に使用された。壁面全体をディスプレイとした部屋。全天周モニターを転用した作戦室と思われる。ここでグラナダ狼撃作戦の説明が行われた。



## 観見室

「セダンの門」時代、ジャコフ・ハイマンがバブテマス・シロコとの接見に使用した部屋。公国時代から存在したのが、復古派の意匠が見られるが部屋自体は狭かった。



## ホール

多数の窓や通路に面した垂直延長型のホール。ソーラ・レイ使用後、ギレン・ザビ総帥が若兵を前に演説した場所である。本来は要塞内通路の立体交差点だったと思われる。



## ミニ・ソーラ・レイ

上下小惑星の接合部に臨んでいた。小型のソーラ・レイ。公国軍の切り札として用意されていたものの、偶然ア・バオア・クーに迷い込んだ連邦軍MS部隊（ジャック・ザ・ハロワント）に破壊された。



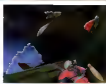
## 小型通路

「セダンの門」時代、MS・艦艇用の通路と人間用の通路が共用される事例は少なかったようで、将兵や重傷は狭い通路を多用。オートウォーク式やグリッパ式の移動が目立った。



## 港湾

要塞の表層部各所に設けられた港湾。大型艦艇用は奥行きが広く、入港中の艦艇が被弾にくい。キシリアのサンジバルが使用した港は、出入口が開閉式となっていた。



## ア・バオア・クー開発の機軸兵器

ア・バオア・クー併合の工庫では兵器の生産だけでなく、新型機軸兵器の開発も行われた。グラナダやキャリアムニア・ベースと比べて開発例は少ないが、「セダンの門」時代にも可変MSなどの特殊機が開発されている。



## ジオン公国時代

ザク強行偵察型が最初期の開発例（ソロモンとする説もある）。以後、しばらく新規開発はなかったが一年戦争末期にゲルググMやビグ・ザムなどを開発している。



MS-00E  
ザク強行偵察型



MS-14F  
ゲルググM



MSN-02  
ジョング



MA-06  
ビグ・ザム



RX-139  
ハンブラビ



RX-136-1  
ラクシャサ



ORX-009  
ガンダム  
[スコル]

## ティターンズ時代

ティターンズ時代には工庫も再構築となったが、バブテマス・シロコやオークランド研究所が設計した機体を製造・調整するという役割を担うことが多かった。

# GUNPLA Generation

ガンダムシリーズの長寿化に尽力してきたバンダイ製  
ガンプラ、その進化の過程ごとくに紐解いてみる。

ガンプラ ジェネレーション

vol.29

## MSN-02 ジョング

機動戦士ガンダムで最後のシャア搭乗機となったジョング。しかし若年層は「脚がない」その独特のスタイルに違和感を覚えた人が多く、ガンプラにおいても同様に見つめられる機体と化している。

### 「脚が欲しい」という熱量が生んだ改造策

1981年3月発売 価格648円の1/144水木は胸部と頭部が金属シャフトで分離状態で再現できる設計内容であったが、やはり問題はジョングのスタイルそのものにあった。アラフィフ世代はアニメ本編での「あんなの(脚)は飾りです。偉い人にもそれがわからないのですよ」というSF度数の高い名セリフにシビれた人が多かったはずだが、若年層的にはやはり「脚がない=未完完成」という印象を払拭できない者が続出。結果、ガンプラを題材としたコミック(プラモ狂四郎)(講談社 コミックボンボン)に登場したパーフェクト・ジョング(1/144 ジョングに1/100の脚を装着したものを)を真似た改造作品が、模型店のショーウィンドウに大量に並んだ光景が思い出される。

その後、MSVにて大河原邦夫氏デザインの正式なパーフェクト・ジョングが発売、1/250で製品化されたこと(1984年7月発売 価格540円・税別)。こちらは上腕部と大腿部の内部フレームが再現されており、外装パーツは装着するが内部フレームを覗き出しのままにするかを選択することができた。



宇宙空間での浮遊シーンを再現するため、金属シャフト+ベースと樹脂ディスプレイパネルが付属した。

ガンプラブーム終焉時の製品化であったゆえ、1/250という半端スケールになってしまったのが残念だ。

「脚」は本当に飾りなのだろうか……？  
いまなお位置付けが難しいシャア搭乗機

ジョングのリメイク化は、1/144 ハイグレードユニバーサルセンチュリー=HGUC(2001年6月発売 価格1,800円・税別)よりスタートを切った。当然ながら旧1/144キットよりもプロポーションは格段に向上。腹部5連装メガ粒子砲は各指が可動、リード線をを用いたオールレンジ攻撃状態も再現可能となっている。パーツ点数は比較的少なめにまとめられている反面、それによって可動箇所は多く、なかなかの秀作となっていた。



可動箇所も多く、オールレンジ攻撃のシーンを引き立たせられる1/144 HGUC。安定感のある仕上がりだ。

続いて天候を早に製品化された1/100 マスターグレードモデル=MG(2002年7月発売 価格6,480円・税別)は、HGUCをそのままバージョンアップしたような内容とした。コクピットハッチは胸部も頭部も開閉式で、オールレンジ攻撃を再現するため、ジョング本体用だけでなく胸部を固定するため計3個のスタンドがセットされているのもポイント。また、腰部と脚部が可動するため、HGUC以上にスムーズで自然な飛行スタイルを取ることもできる。さらに、スカートはスケールに見合った厚みをも



HGUCにおけるスカート内部のバーニアはものすべてが可動式。この手法は1/100 MGでも採用されている。



内部メカニクの再現や広域な可動範囲の確保など、1/100 MGはまさにHGUCの上位互換的内容だ。

再現するため外装パーツと内装パーツを貼り合わせる形式が採られ、これがもたらしたリアリティは相当に高い。ほかにも肘にはスライドキックが採用されていたり、胸部や腹部などには内部メカニズムが再現されているなど、MGならではの満足度の高い仕上がりを実現することができる。

そして、考えようによっては当然、しかし視点を変えると「……えっ!?」と思わされるようなアイテムが2004年6月にリリースされる。1/100 MGでの、パーフェクト・ジョングの製品化だ(価格10,000円・税別)。もちろんこれはMGジョングのパーツを最大限活用してのキット化なわけだが、しかしHGUC化されていないパーフェクト・ジョングがMG化されたことに、対し驚きを感じた人は少なかつたはずだ。ちなみにキットはMGジョングの設計コンセプトに基づき胸部外装が着脱可能で、アニメでは「飾り」と称された脚は大腿部の付け根で本体から取り外すこともできる。プラモ狂四郎、MSV、世代にとっては、うれしいサプライズとなったはずだ。



MGパーフェクト・ジョングの見どころは、やはりリアススカートや足の裏などの詳細なディテールだ。

# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
30

## お知らせ

諸般の事情により、ガンダム・モビルスーツ・バイブル は、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。  
次号、第30号の発売は11月12日(火)です。

## ZZガンダム

MSZ-006 Zガンダムに続く、『Z計画』の申し子。  
機体を構成する3つのパーツに動力を有するため、  
高出力を誇るビーム兵器を複数運用可能だ。

お買い忘れなく安心! 隔週刊をメールでお知らせします!

**発売日お知らせメール**

<https://deagostini.jp/ushirase/gms/>



- 戦術レポート  
新たな力、出現!
- MS機体解説  
機体解説 / 武装解説
- 関連MSラインナップ  
ZZガンダムと関連機体
- MSパイロット  
ジュードと周辺人物
- MS戦記  
ZZガンダム 戦術の記録
- MS進化論  
ZZガンダム 開発系譜図

- メカニック・ジャーナル  
Z計画と開発機体  
ドック艦の存在
- ガンブラジェネレーション  
分離・変形・合体機構の  
忠実な再現に挑戦!

第30号

11月12日(火)発売

定価: 本体 639 円 + 税

※地域によって発売日が異なる場合があります  
※マガジンの内容が変更となる場合があります

MSの恐竜的進化がもたらした、大火力かつ重装甲のMS!

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

通常価格

1,230 円

(税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌10号分を収録できます。

※何冊でもご購入いただけます。

書庫に便利な  
ステッカー  
付き!



好評  
発売中

バック  
ナンバー  
ご案内



24 ガンダムF91



25 ジム



26 ヤクト・ドーガ



27 アレックス



28 シナンジュ

※第1号〜第23号も好評発売中。全国の書店で買い求めください

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

GUNDAM

# MS Bible

Mobile  
Suit

ガンダム モビルスーツ・バイブル

MSN-02/ジオング



29

2019.11.12 11.19 全併号

## ジオング

● ZEONG

# MSN-02



Total Height : 17.3m  
Weight : 151.2t  
Total Weight : 231.8t  
Material : Super Hard Alloy Steel  
Generator Output : 9,400kW  
Thrusters Total Propulsion : 187,000kg



公国の勝利を信じて「ジオン」の名を与えられたニュータイプ専用機



DeAGOSTINI

